

### (3) 北 関 東



北関東地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善している。

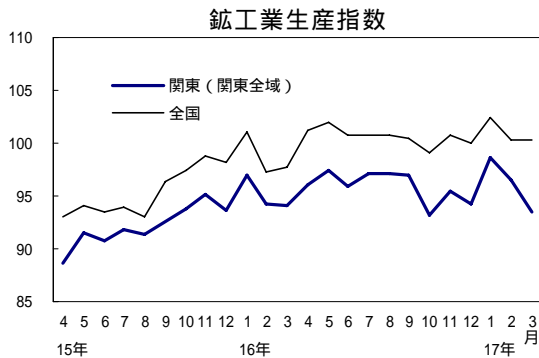
#### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成 17 年 2 月）	今回（平成 17 年 5 月）	
景況判断	回復の動きに一服感がみられる	緩やかに回復している	
鉱工業生産	このところ緩やかに減少	おおむね横ばい	

#### 1. 生産及び企業動向

##### (1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。（関東全域）

一般機械は、1月に半導体製造装置の生産が伸びたことから、2四半期ぶりに増加した。化学は、中国を中心とするアジアでのフェノールの需要が堅調であることなどから、2四半期ぶりの増加となった。輸送機械は、1月に普通乗用車の北米向け輸出が伸びたことに加えて、鋼船が法令改正による駆け込み需要の影響で引き続き大きく伸びたため、全体でも大幅な増加となった。情報通信機械は、1月に大型コンピュータの特需があったことに加えて、1、2月に新機種発売に向けた携帯電話の生産が集中したことから、増加に転じた。電気機械は、半導体・IC測定器が引き続き減少していることなどから、3四半期連続の減少となった。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。  
2. 平成17年3月の関東は速報値。

##### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
一般機械	13.8	6.0	2.3	0.2	1.9
化学	13.7	6.7	6.9	6.1	3.7
輸送機械	11.3	3.4	11.5	0.9	1.8
情報通信機械	8.6	2.7	9.7	4.9	4.4
電気機械	7.9	1.9	4.4	1.1	2.7
鉱工業	100.0	2.8	2.0	0.4	0.7

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

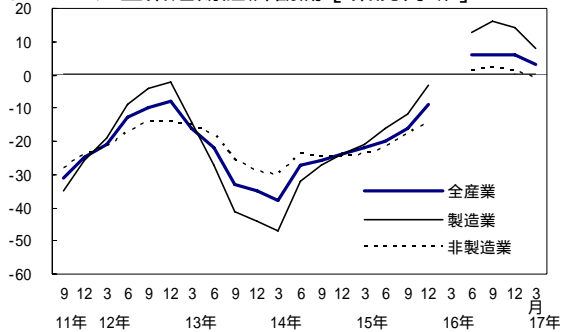
2. 1~3月期は速報値。

3. 1~3月期の化学の生産、出荷については、1月、2月  
確報値の平均より算出。在庫については、2月確報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

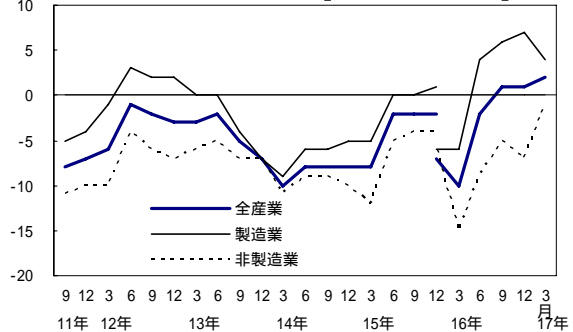
(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。  
関東全域(新潟県を含む)

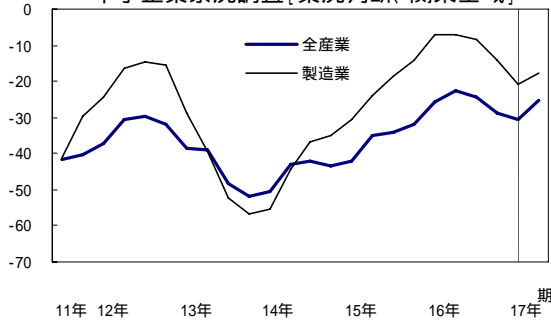
(%ポイント)企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月は新・旧基準を併記。  
旧基準は関東全域、新基準は日本銀行前橋支店管内。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断、関東全域]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

#### 景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「製造業は、原油、鉄鋼の値上げの影響から、材料仕入れコストが引き続き増加している。半導体は在庫が増加傾向にあり、受注量が減少している。自動車部品関連は受注増の傾向にあり、順調である(金融業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 16年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

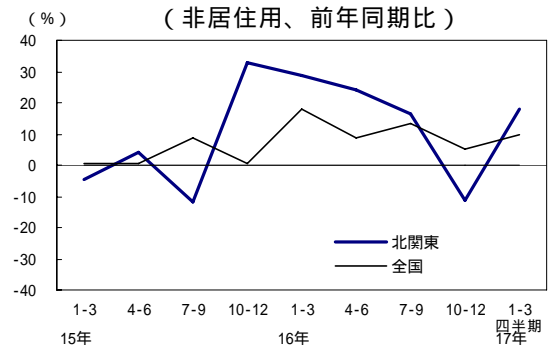
企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	16年度実績見込み	17年度見込み
全産業	18.9( 6.5)	9.9
製造業	22.7( 9.1)	6.5
非製造業	12.5( 1.4)	15.9

(備考)( )は前回(12月)調査比修正率。

調査対象は日本銀行前橋支店管内。

建築着工床面積  
(非居住用、前年同期比)



(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

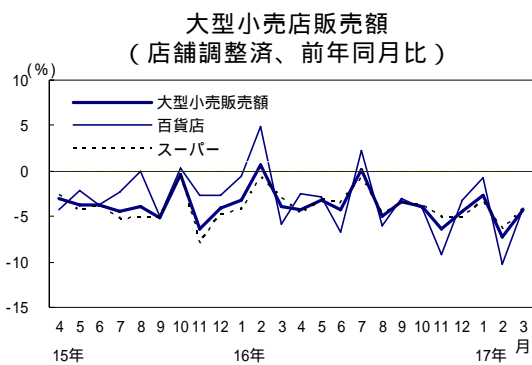
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、初売りの効果に加えて、気温が低下したことにより、冬物商品を中心としたクリアランスセールが好調で、身の回り品などが前年を上回ったが、全体としては前年を下回った。2月は、低めの気温により、春物衣料に動きがみられなかったことに加えて、うるう年であった前年に比べて営業日(日曜日)が1日減少したことから、前年を下回った。3月は、低めの気温や天候不順の影響により、春物衣料が不振だったことなどから、8か月連続で前年を下回った。

スーパーは、期を通じて主力の飲食料品が伸び悩んだことなどから、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

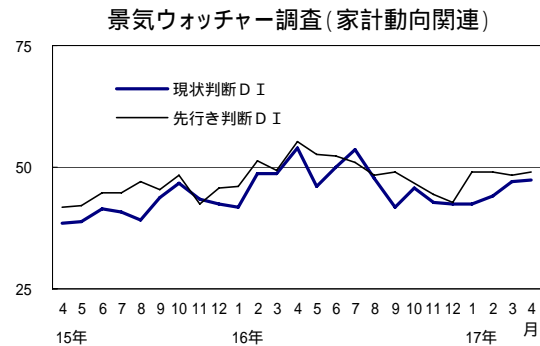
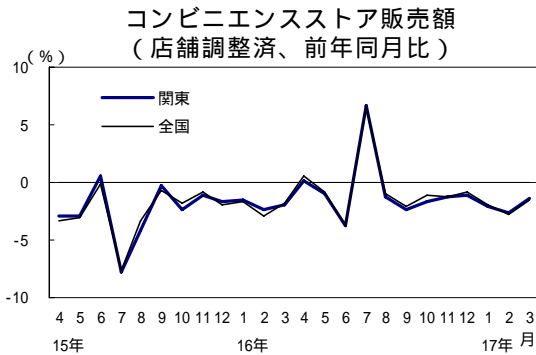
「客の動きをみていると、余計なものは買わない、無駄はしない、という意味がはっきりと伝わってくる。また、店舗で発行している商品券やサービスカードなどを併用し、なるべく出費を抑えるよう工夫している(衣料品専門店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	16年4-6月	7-9月	10-12月	17年1-3月
大型小売店	3.9	2.7	4.9	4.5
百貨店	4.0	1.9	5.3	4.7
スーパー	3.9	2.9	4.7	4.5
コンビニ	1.6	1.0	1.3	2.1
景気ウォッチャー	49.9	47.7	43.5	44.4

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。17年1-3月期は速報値。コンビニは関東全域。

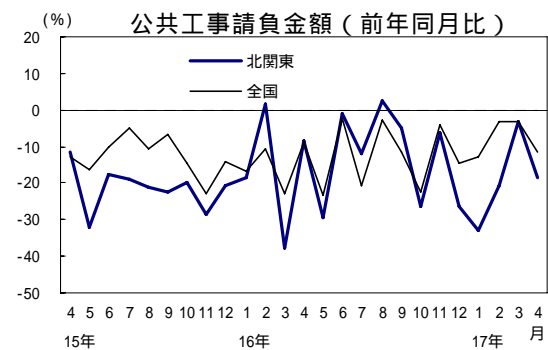
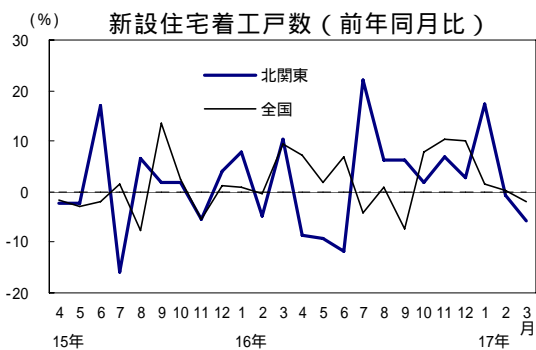
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家が前年を下回ったものの、分譲、貸家が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。

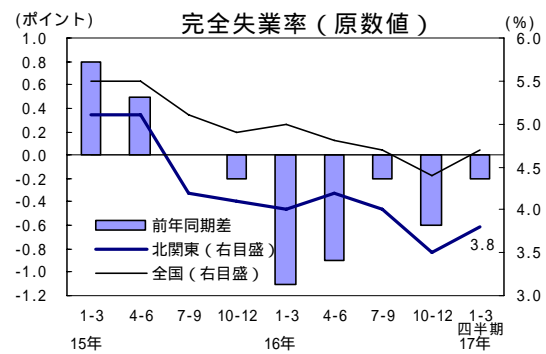
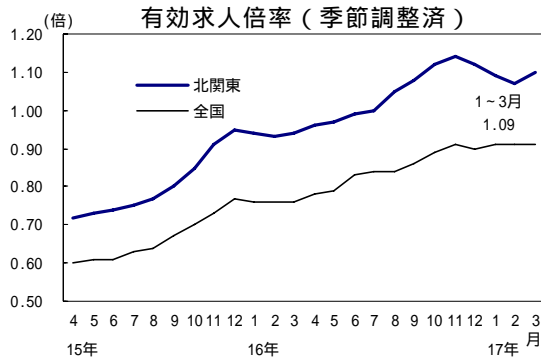


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月)[雇用関連 (現状)]

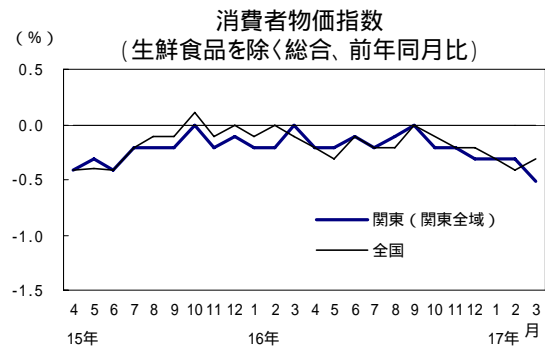
「正社員の採用は慎重で、募集も少ない。地元の求人誌の募集でも、派遣や請負、サービスのパートやアルバイトは多いが、建築、土木は極端に少ない(求人情報誌製作会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	16年4-6月	7-9月	10-12月	17年1-3月	17年4月
倒産件数	156	140	156	165	50
(前年比)	38.6	17.6	9.3	6.3	6.4
負債総額	1,581	611	967	1,007	188
(前年比)	27.4	25.4	41.4	30.2	83.7



景気ウォッチャー調査 (4月)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・賃貸、土地ともかなり値段が安くなっているにもかかわらず、客は更に値段交渉に入ってくる。デフレ現象に変わりはない(住宅販売会社)

<先行き>

・春夏物の商品購買を期待し、商品陳列や採用者に動きがみられる。原油価格の動きによっては、住宅関連など石油製品等を取り扱う製造ラインの人員増が期待できる。電気電子関係は、夏物に向けて新製品の生産に少し力を入れており、採用者が見込まれる。全体的にやや上向きの見通しである(人材派遣会社)

景気ウォッチャー調査 (合計)

